学校教育目標 「学ぶたのしさ 遊ぶ楽しさ つながる楽しさ」 No.14

豊島小学校だより



令和８年（2026年）11月13日発行　　校長　黒木　優一

カラー版は『http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/tesima/』でご覧ください。

児童用1人1台端末（iPad）の新端末への交換作業について

児童用１人１台端末（iPad）の新端末への交換作業が来週から始まりますので、次の２点につきましてご協力お願いいたします。

① 新しい『端末』と『充電器』が配られましたら、本体裏面のネームカードへの記名を確認してください。（高学年は児童が記入、低学年は保護者に記入してもらいます。）
② 現在児童が使用している【充電器】【充電ケーブル】は、豊中市から借りているものです。11月18日（水）までに学校へ返却お願いします。

※紛失して家庭用で代替している場合は、
担任までお知らせください。



いじめ解消の確認について

いじめの解消については、『豊島小学校いじめ防止基本方針』に次のように記載されています。

いじめが解消された状態については、以下の２つの要件が満たされて初めて解消したと考える。また、これらの要件が満たされた状態でも、必要に応じて他の要件も勘案して判断することもある。

（1）　いじめそのものの行為が止まっている
心理的または物理的影響を与える行為が止んでいる状態が相当の期間（およそ3ヶ月）継続している。

（2）　いじめられた児童が心身の苦痛を感じていないこと
いじめが解消しているかどうかを判断する時点において、いじめられた児童がいじめ行為により心身の苦痛を感じていないと認められるかどうかで判断する。そのために、いじめられた児童及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかを面談により確認する。

２学期以降の案件につきまして、被害児童本人には対面、その保護者の方には対面（個人懇談）またはお電話でいじめ解消を確認させていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。（１学期の案件は確認済み）

《ルールメイキングについて》

ルールメイキングとは、子どもたちが中心となり、先生や保護者などの関係者と対話を重ねながら、学校の校則やルールを民主的に見直し・作っていく取り組みです。単に校則を緩めたり変えたりすること自体が目的ではなく、プロセスを通じて「納得解」を形成し、子どもたちが主体的に学校や社会に関わる力を育むことをねらいとしています。

11月16日（月）から学校のきまりが変更になり、数年ぶりに休み時間に運動場でサッカー遊びができるようになります。この日に至るまでの長い道のりを紹介したいと思います。



１．「校長先生聞いてや～。」

１学期のとある日の休み時間。６年生数名が突然校長室を訪れ、「校長先生聞いてや～。」と話を切り出しました。話を詳しく聞いてみると、「休み時間にサッカー遊びをどうしてもやりたい。」とのこと。豊島小学校のきまりでは、休み時間にサッカー遊びをしてはいけないことになっています。「やりたい気持ちはわかるけど、学校のきまりでそうなっているからね・・・。」そう答えると「俺たちがルールを破ったり、あかんことしたりしたわけでないのに、入学してからずっとだめなの何でなん？」とヒートアップする子どもたち。しばらく考えた後、「それもそうやね。だったら、いつからサッカー遊びダメになったのか、何でだめになったのか、まずはそこから自分たちで調べてみたら？」と尋ねると「わかった。調べてみる。」というのが、ルールメイキング初日の出来事でした。

２．「先生たちへ提案→全校児童にアンケート」

それから子どもたちは本校での勤務年数の長い先生にインタビューを行うなどして、①現６年生が入学する前は休み時間にサッカー遊びができたということ、②当時の子たちが割り当ての曜日や使っていい場所などのきまりを守れなかったり、危険な遊びをしたりしてケガが多かったということ、③それを危惧した先生たちが休み時間のサッカー遊びを禁止したことなどを調べてきました。それに対して「自分たちのルールを自分たちで考えて変更するのは構わないが、学校の決まりである以上、校長先生、ほかの先生たち、全校児童のみんなが納得いくルールや遊び方まできちんと考えることが条件。それでもやりますか？」との問いに「もちろんやる！」と意欲的な子どもたちでした。それから自分たちでルールや遊び方を考え、先生たちに提案するために資料や動画を作り、代表者で会議を行ったり、全校児童にアンケートを行ったりして、ようやく休み時間にサッカー遊びができるようになりました。

ルールメイキングの効果として、『当事者意識の向上』『課題解決力と対話力の育成』『背景やルールの目的の理解』などがあげられますが、こういった取り組みを通じて、子どもたちの主体性が育っていってほしいと思います。

